

## 青森県内の消費生活相談受付状況（令和3年度）のポイント

### 【相談全体に関して】

- 令和3年度の消費生活相談件数は計 7516 件で、前年度と比較して 979 件の減少（減少率 11.5%）となっています。
- うち特殊詐欺の相談は計 584 件で、前年同期と比較し 36 件の増加（増加率 6.6%）です。これは、還付金詐欺の相談が令和3年3月以降急増していることが要因となっています。

### 【特徴・変化】

#### ① 高齢者からの相談件数

- ・ 65歳以上の高齢者からの相談件数 2536 件（前年同期比▲314 件、減少率 11.0%）
- ・ 相談全体に占める割合 33.7%（← 前年同期 33.5%）

#### ② 各年代の相談状況

いずれも減少しているが、特に 20 歳未満の減少率が大きい

- ・ 20 歳未満からの相談件数 184 件（前年同期比▲88 件、減少率 32.4%）  
件数が多い相談：教養・娯楽サービス（インターネットゲームやアダルト情報など）
- ・ 20 代からの相談件数 577 件（前年同期比▲55 件、減少率 8.7%）  
件数が多い相談：教養・娯楽サービス（出会い系サイト、副業サイトなど）
- ・ 30 代からの相談件数 700 件（前年同期比▲80 件、減少率 10.3%）  
件数が多い相談：商品一般（架空請求、フィッシング詐欺、不審な電話など）
- ・ 40 代からの相談件数 934 件（前年同期比▲191 件、減少率 17.0%）  
件数が多い相談：商品一般（架空請求、フィッシング詐欺、不審な電話など）
- ・ 50 代からの相談件数 1,267 件（前年同期比▲122 件、減少率 8.8%）  
件数が多い相談：商品一般（架空請求、フィッシング詐欺、不審な電話など）
- ・ 60 代からの相談件数 1,316 件（前年同期比▲132 件、減少率 9.1%）  
件数が多い相談：商品一般（架空請求、フィッシング詐欺、不審な電話など）

#### ③ 還付金詐欺に関する相談が急増

- ・ 特殊詐欺に関する相談件数 584 件（前年同期比+36 件、増加率 6.6%）
- ・ 相談全体に占める特殊詐欺の割合 7.8%（← 前年同期 6.5%）
- ・ 特殊詐欺のうち、還付金詐欺相談件数 196 件（前年同期比+152 件、増加率 345.5%）

#### ④ 副業に関する相談が増加

- ・ 副業（登録料を支払ったが稼げない等）200 件（前年同期比+59 件、増加率 41.8%）

#### ⑤ これまで増加傾向だった定期購入は減少

- ・ 定期購入（健康食品・化粧品等）521 件（前年同期比▲222 件、減少率 29.9%）

#### ⑥ 「アナログ戻し」に関する相談が増加傾向

- ・ 電話回線の「アナログ戻し」に関する相談 109 件（前年同期比+84 件、増加率 336.0%）

## 令和3年度青森県内の消費生活相談受付状況

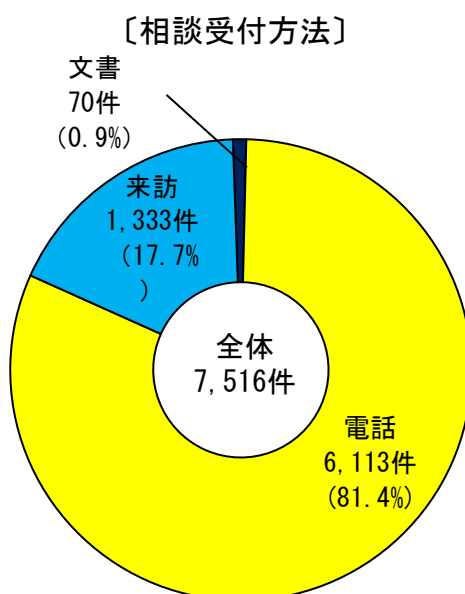
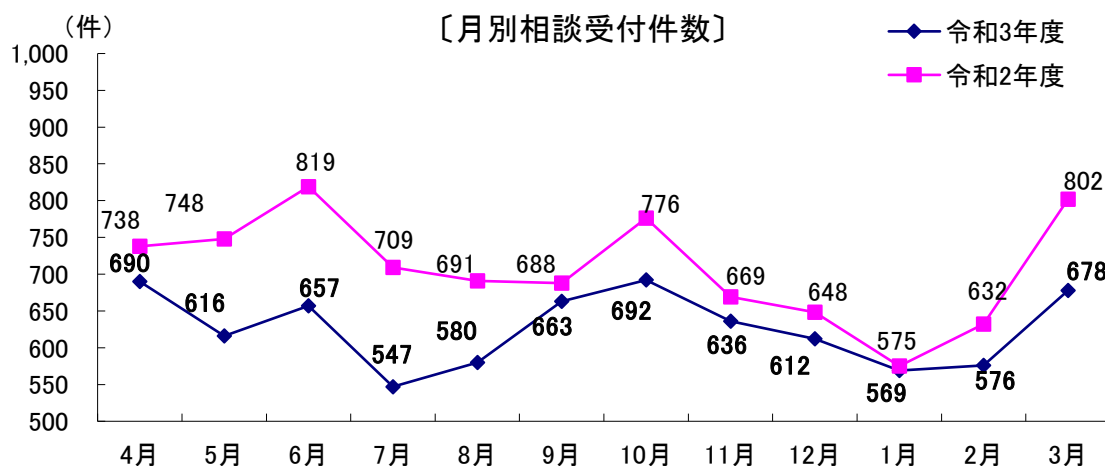
### 1 相談受付状況

#### (1) 概況

令和3年度に県内の消費生活相談窓口で受け付けた消費生活に関する相談件数は、7,516件(苦情相談6,089件、問合せ1,427件)であり、前年度と比較して979件(11.5%)減少しています。

(単位：件)

項目	年度	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
苦情		6,089	6,914	▲825	88.1%
問合せ		1,427	1,581	▲154	90.3%
計		7,516	8,495	▲979	88.5%

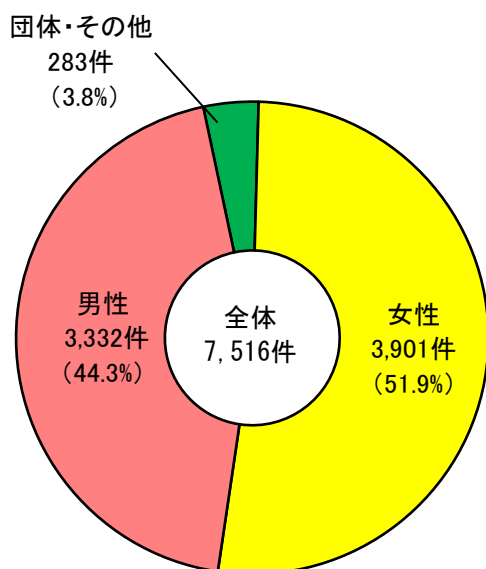


## (2) 契約当事者の状況

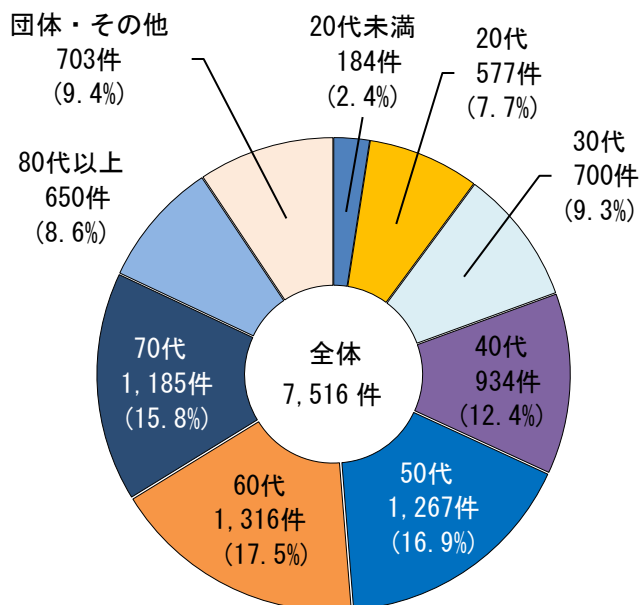
契約当事者を性別でみると、女性が3,901件で、全体の51.9%を占めています。年代別では、60代が1,316件(17.5%)と最も多く、次いで50代が1,267件(16.9%)となっています。

また、契約当事者を職業別でみると、給与生活者が2,810件(37.4%)と最も多く、次いで無職が2,737件(36.4%)となっています。

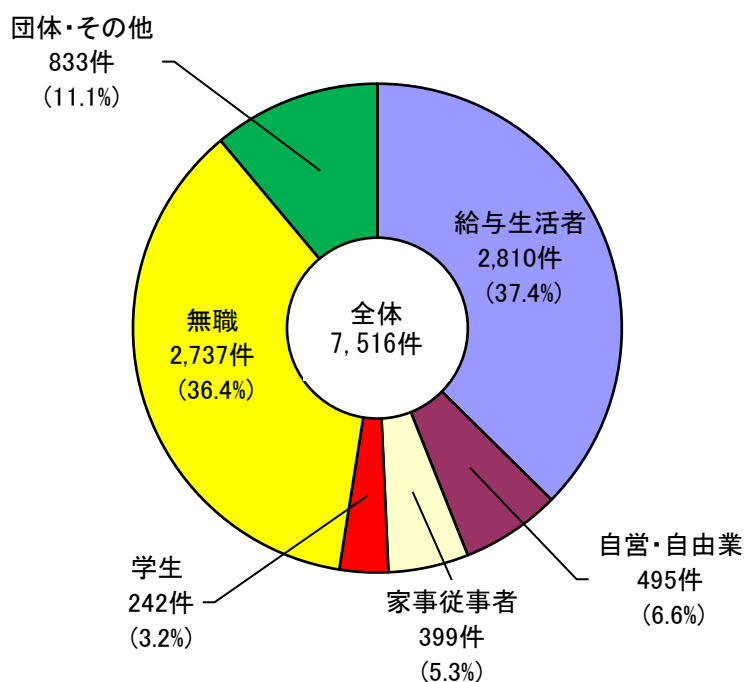
〔契約当事者の性別〕



〔契約当事者の年代〕



〔契約当事者の職業〕



### (3) 主な商品・役務別の相談受付状況

(単位：件)

	商品・役務名	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
1	商品一般	821	1,045	▲224	78.6%
2	金融・保険サービス	675	755	▲80	89.4%
3	教養・娯楽サービス	638	152	486	419.7%
4	運輸・通信サービス	575	1,458	▲883	39.4%
5	食料品	551	833	▲282	66.1%
	その他	4,256	4,252	4	100.1%
	計	7,516	8,495	▲979	88.5%

#### 1 「商品一般」

令和3年度の相談件数は821件で、前年度より224件(21.4%)減少しています。商品一般は、商品が多岐にわたる相談や、商品を特定できない相談が分類されます。また、「消費料金」等の債務内容が不明な架空請求や、宅配業者の不在通知を装った不審なSMS、個人情報聞き出そうとする不審な電話に関する相談なども含まれています。

#### 2 「金融・保険サービス」

令和3年度の相談件数は675件で、前年度より80件(10.6%)減少しています。借金の返済が困難になったという多重債務に関する相談のほか、クレジットカードの解約手続きに関する相談がありました。

#### 3 「教養・娯楽サービス」

令和3年度の相談件数は638件で、前年度より486件(319.7%)増加しています。これは、令和3年4月から相談内容の区分が変更され、アダルト情報サイト、出会い系サイト等のデジタルコンテンツが、「運輸・通信サービス」から「教養・娯楽サービス」に分類されるようになったため、相談が大幅に増加したような形になっています。

#### 4 「運輸・通信サービス」

令和3年度の相談件数は575件で、前年度より883件(60.6%)減少しています。光回線の契約トラブルを含むインターネット通信サービスに関する相談が248件で、前年度の429件に比較して181件(42.2%)の大幅な減少となったことが要因のひとつです。

また、令和3年4月から相談内容の区分が変更され、アダルト情報サイト、出会い系サイト等のデジタルコンテンツが、「運輸・通信サービス」から「教養・娯楽サービス」に分類されるようになったため、相談が大幅に減少したような形になっています。

#### 5 「食料品」

令和3年度の相談件数は551件で、前年度より282件(33.9%)減少しています。お試しのつもりで安価な健康食品を申し込んだが、その契約条件として複数回の定期購入が条件になっていたなど、健康食品の定期購入に関するトラブルや海産物の電話勧誘に関する相談がありました。

#### (4) 契約当事者年代別商品・役務相談受付状況（上位3位）

契約当事者の年代別の商品・役務別上位3位は以下の表のとおりとなっています。20歳未満、20代の若年層では、教養・娯楽サービスが1位になっています。その内訳を見ると、20歳未満ではインターネットゲームやアダルト情報、20代では出会い系サイトや副業サイトが主となっています。

30代から70代の1位は架空請求、フィッシング詐欺、不審な電話などの商品一般となっています。80代以上の1位は食料品で、健康食品の定期購入や強引な電話勧誘に関する相談が多くなっています。

（単位：件）

	1		2		3	
20歳未満	教養・娯楽サービス	65	保健衛生品	30	被服品	19
20代	教養・娯楽サービス	92	金融・保険サービス	70	商品一般	54
30代	商品一般	73	教養・娯楽サービス	70	金融・保険サービス	64
40代	商品一般	91	教養・娯楽サービス	88	金融・保険サービス	84
50代	商品一般	131	教養・娯楽サービス	127	保健衛生品	116
60代	商品一般	166	保健・福祉サービス	141	運輸・通信サービス	117
70代	商品一般	151	運輸・通信サービス	138	食料品	115
80代以上	食料品	90	商品一般	70	他の役務	70
その他・不明	金融・保険サービス	90	商品一般	73	運輸・通信サービス	62

#### (5) 相談に係る契約等の既払金額

令和3年度の相談受付件数に係る既払金額等の状況をみると、お金を支払った人の数は減少しましたが、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払額は増加しました。

	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
お金を支払った人の数	1,557人	1,785人	▲228人	87.2%
既払金額合計	597,660千円	585,239千円	12,421千円	102.1%
平均既払金額（一人当たり）	384千円	328千円	56千円	117.1%
最大既払額	53,400千円	39,300千円	14,100千円	135.9%

## 2 消費生活相談における特殊詐欺の状況

### (1) 概況

令和3年度の特種詐欺に関する相談件数は584件で、前年度より36件（6.6%）増加しています。類型別にみると、振り込み詐欺が355件（相談件数の60.8%）と最も多く、次いでワンクリック詐欺の119件（同20.4%）となっています。

振り込み詐欺のうち、還付金詐欺が196件で前年度より152件（345.5%）増加しており、特種詐欺の相談が増加したことの主な要因となっています。

(単位：件)

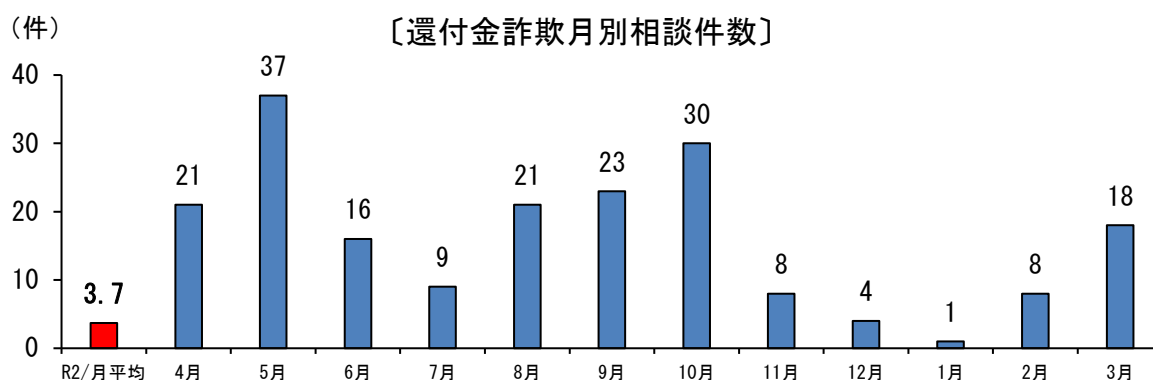
類 型	年 度	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増 減 (a-b)	前年度比 (a/b)
振り込み詐欺		355	323	32	109.9%
架空請求詐欺		158	276	▲118	57.2%
還付金詐欺		196	44	152	445.5%
融資保証金詐欺		1	3	▲2	33.3%
オレオレ詐欺		0	0	-	-
ワンクリック詐欺		119	115	4	103.5%
その他の名目詐欺（宝くじ等）		42	6	36	700.0%
金融商品取引名目詐欺		34	46	▲12	73.9%
異性との交際あっせん名目詐欺		33	56	▲23	58.9%
ギャンブル必勝法情報提供名目詐欺		1	2	▲1	50.0%
合 計		584	548	36	106.6%

なお、それぞれの特殊詐欺の類型と、消費生活相談において分類される主な商品・役務名との対応状況は以下のとおりです。

(参考) 主な商品・役務別分類（P3）との対応状況

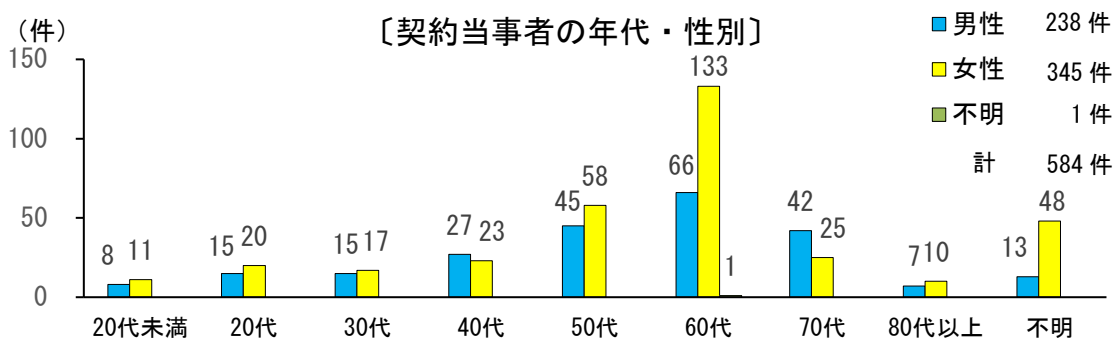
類 型	主な商品・役務名
振り込み詐欺	
架空請求詐欺	商品一般、教養・娯楽サービス
還付金詐欺	保健・福祉サービス、他の行政サービス
融資保証金詐欺	金融・保険サービス
オレオレ詐欺	相談その他
ワンクリック詐欺	教養・娯楽サービス
異性との交際あっせん名目詐欺	教養・娯楽サービス
金融商品取引名目詐欺	金融・保険サービス
その他の名目詐欺（宝くじ）	教養・娯楽サービス
ギャンブル必勝法情報提供名目詐欺	教養・娯楽サービス

令和3年度では、還付金詐欺の相談が急増しました。令和2年度の月別平均件数は3.7件でしたが、令和3年度の月別相談受付件数のグラフの通り、相談が増加していることがわかります。



## (2) 特殊詐欺に係る当事者の状況

令和3年度における特殊詐欺に係る当事者を年代・性別で見ると、60代女性の133件が最も多く、次いで60代男性の66件、50代女性の58件となっています。



## (3) 特殊詐欺に係る既払金額

令和3年度の特種詐欺に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数、既払金額の合計、最大既払額は増加していますが、一人当たりの平均既払金額は減少しています。

	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
お金を支払った人の数	89人	70人	19人	127.1%
既払金額合計	141,780千円	131,827千円	9,953千円	107.6%
平均既払金額 (一人当たり)	1,593千円	1,883千円	▲290千円	84.6%
最大既払額	53,400千円	39,300千円	14,100千円	135.9%

## 3 相談全般における特徴

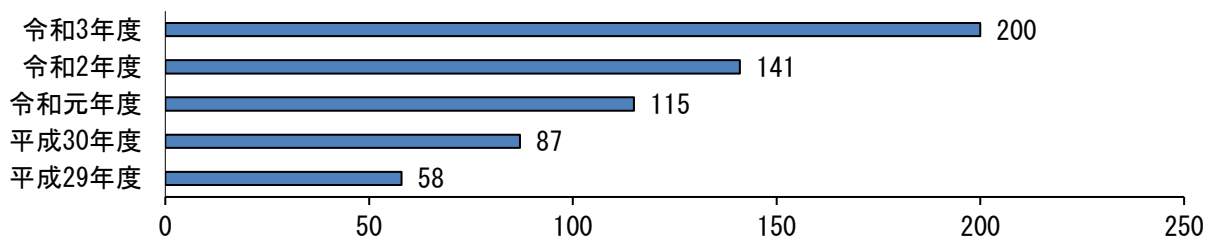
### (1) 副業に関する相談が増加

副業に関する相談は200件で、前年度より59件(41.8%)増加しています。インターネットで副業サイトを検索し、スマホの簡単な操作だけで楽に稼げるという副業サイトに登録してお金を支払ったが、説明と違って稼げないなどの相談が多くなっています。過去5年間の副業に関する相談件数の推移からも、相談の増加傾向が続いていることがわかります。

(単位：件)

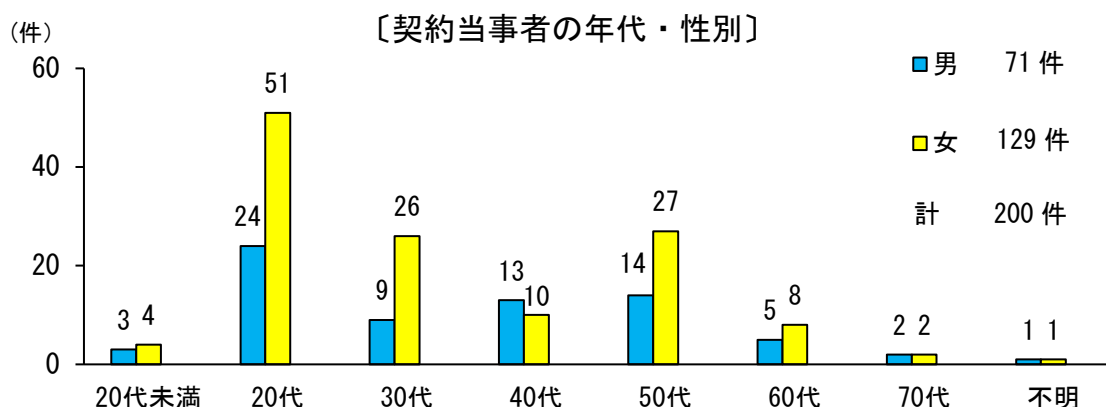
	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
副業に関する相談	200	141	59	141.8%

〔副業に関する相談受付件数の推移〕



契約当事者を年代・性別でみると、20代女性が最も多く51件、次いで50代女性が27件となっており、20代が全体の37.5%を占めています。

性別では、男性が71件、女性が129件で女性が全体の64.5%を占めており、女性の相談が多くなっています。



## (2) 定期購入に関する相談が減少

定期購入に関する相談は521件で、前年度より222件減少しました。SNSなどで格安の化粧品や健康食品の広告を見て購入申し込みをしたが、その後、定期購入だったことがわかり、2回目以降の解約をしたいという相談が多く寄せられました。

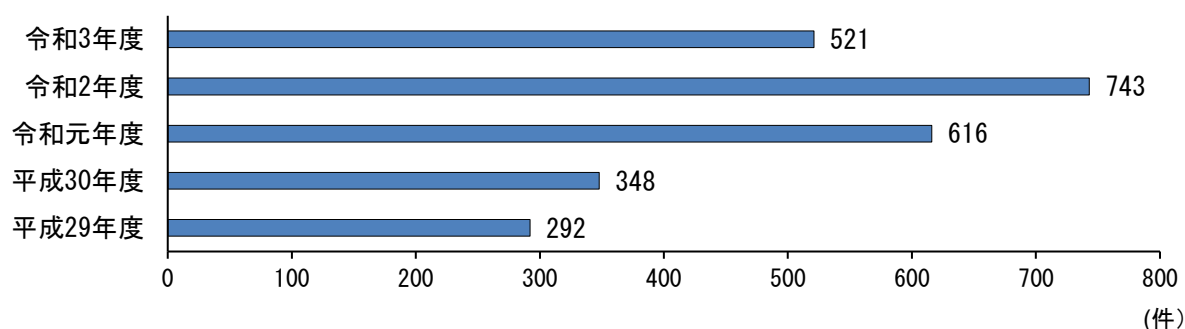
令和3年度は、化粧品が最も多く283件（相談全体の54.3%）、次いで健康食品の185件（相談全体の35.5%）となっています。令和2年度まで最も多かった健康食品が多く減少しており、定期購入に関する相談が大きく減少した要因となっています。

(単位：件)

商品・役務名	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増 減 (a-b)	前年度比 (a/b)
化粧品	283	210	73	134.8%
健康食品	185	412	▲227	44.9%
他の教養娯楽品	13	41	▲28	31.7%
その他	40	80	▲40	50.0%
計	521	743	▲222	70.1%

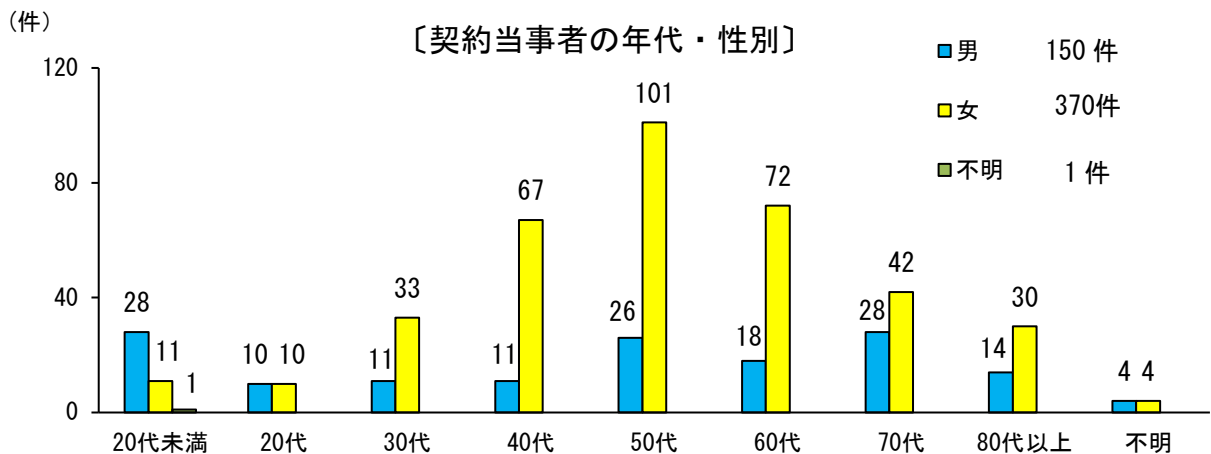
過去5年間の相談件数の推移を見ると、これまでの増加傾向が、令和3年度に減少に転じたことがわかります。

### 〔定期購入に関する相談件数の推移〕





契約当事者の年代・性別でみると、50代女性が101件と最も多く、次いで40代女性の72件となっています。中学生や高校生などを含む20代未満男性の相談は28件で、70代男性と並び男性としては最も多くなっています。



### (3) アナログ戻しに関する相談が増加

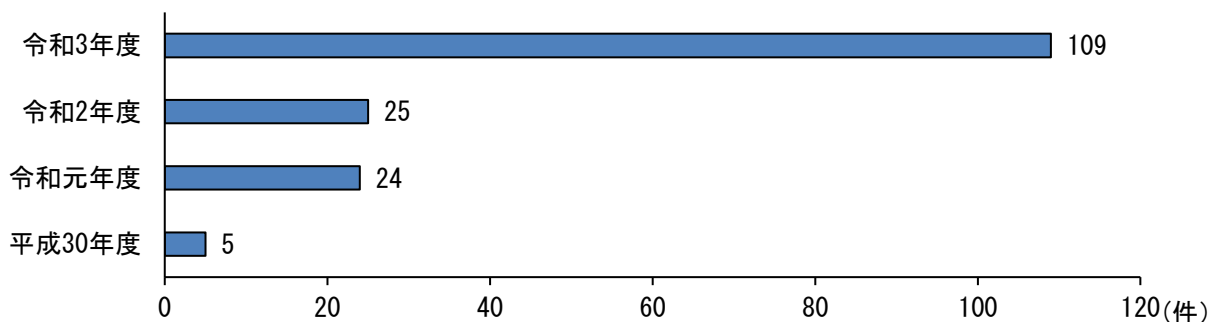
電話回線の「アナログ戻し」に関する相談は109件で、前年度より84件（336.0%）増加しました。大手電話会社を名乗り、光回線からアナログ回線に戻すと電話料金が安くなると勧められ、依頼すると高額な工事費用や不要なオプションサービスの料金を請求されるなどの相談が多くなっています。

(単位：件)

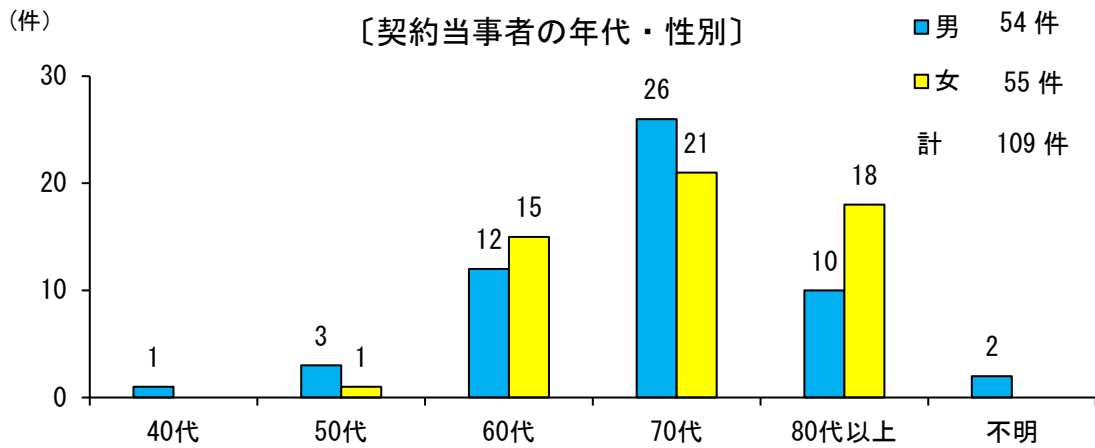
	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増 減 (a-b)	前年度比 (a/b)
アナログ戻しに関する相談	109	25	84	436.0%

アナログ戻しに関する相談は、平成30年度に初めて発生し、令和3年度に急増しています。

〔アナログ戻しに関する相談件数の推移〕



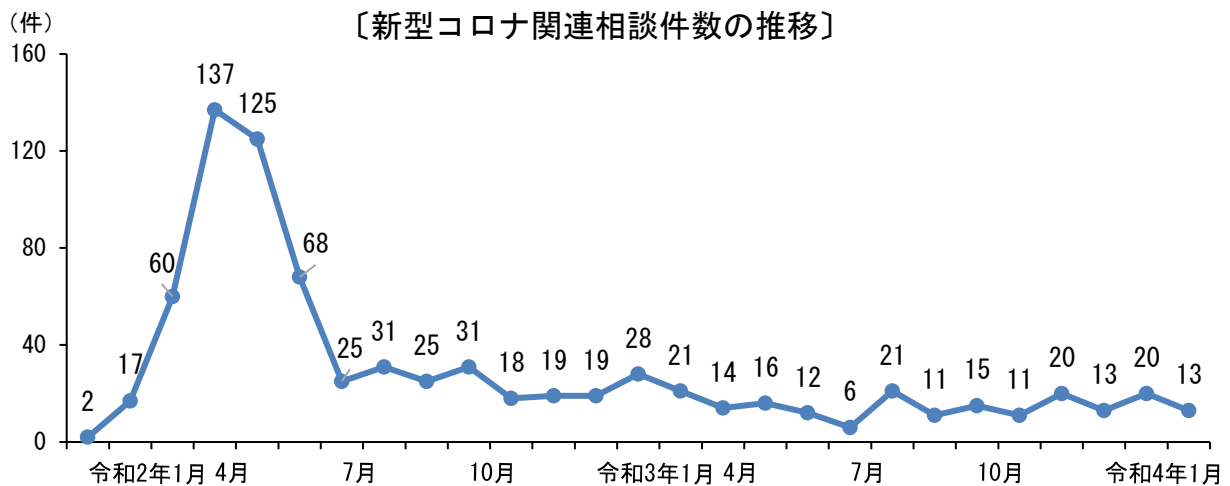
契約当事者の年代・性別でみると、70代男性が26件と最も多く、次いで70代女性が18件となっています。30代以下の若い世代からの相談がない一方、60代以上の相談が多いという特徴があります。



#### (4) 新型コロナウイルス関連の相談受付状況

##### ア 概況

新型コロナ関連の相談は令和2年1月に始まり、同年4月をピークとして相談は減少し、以降はわずかな増減を繰り返しほぼ横ばいの状態で推移しています。



##### イ 主な相談事例

主な相談内容は、時期によって以下の通り特徴がみられます。

- 令和2年5月頃まで
  - ・ マスクが高額、入手困難。ネット通販でマスクを購入したが商品が届かない。
  - ・ 旅行サイトで宿泊予約のキャンセルをしたら、返金しないと言われた。
  - ・ 結婚披露宴の延期を申し出たら、高額なキャンセル料を請求された。
- 令和2年6月頃～
  - ・ 「二回目特別定額給付金」というメールが届いたが怪しい。
  - ・ スポーツクラブでクラスターが発生したため退会したい。支払済み利用料を返金して欲しい。
- 令和3年2月頃～
  - ・ 収入減となったので、副業サイトに登録してお金を払ったが収入を得られない。

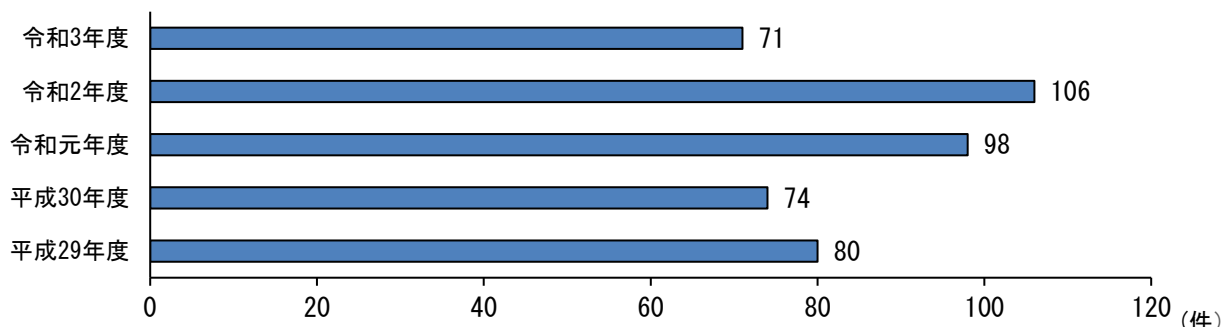
## (5) 18歳・19歳の相談受付状況

### ア 概況

令和4年4月1日から改正民法が施行され、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これに伴い、これまで未成年者取消権により、契約の取消しが可能だった、18歳、19歳の契約に関するトラブルが懸念されることから、この年代の相談受付状況に注目しています。

過去5年間の18歳、19歳の相談を見ると、令和元年度及び令和2年度は定期購入により増加傾向が見られましたが、その他の年度は、概ね80件前後の相談となっています。

〔18歳・19歳の相談受付件数の推移〕



### イ 主な商品・役務別の相談状況

令和3年度の相談件数は71件で前年度より35件(33.0%)減少しています。商品・役務別では、アダルト情報サイトや出会い系サイトを含む教養・娯楽サービスに関する相談が22件で最も多くなっています。

(単位：件)

	商品・役務名	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
1	教養・娯楽サービス	22	1	21	2,200.0%
2	被服品	8	7	1	114.3%
3	商品一般	7	8	▲1	87.5%
4	食料品	5	15	▲10	33.3%
	運輸・通信サービス	5	27	▲22	18.5%
	その他	24	48	▲24	50.0%
	計	71	106	▲35	67.0%

## 4 65歳以上の高齢者の状況

### (1) 全般

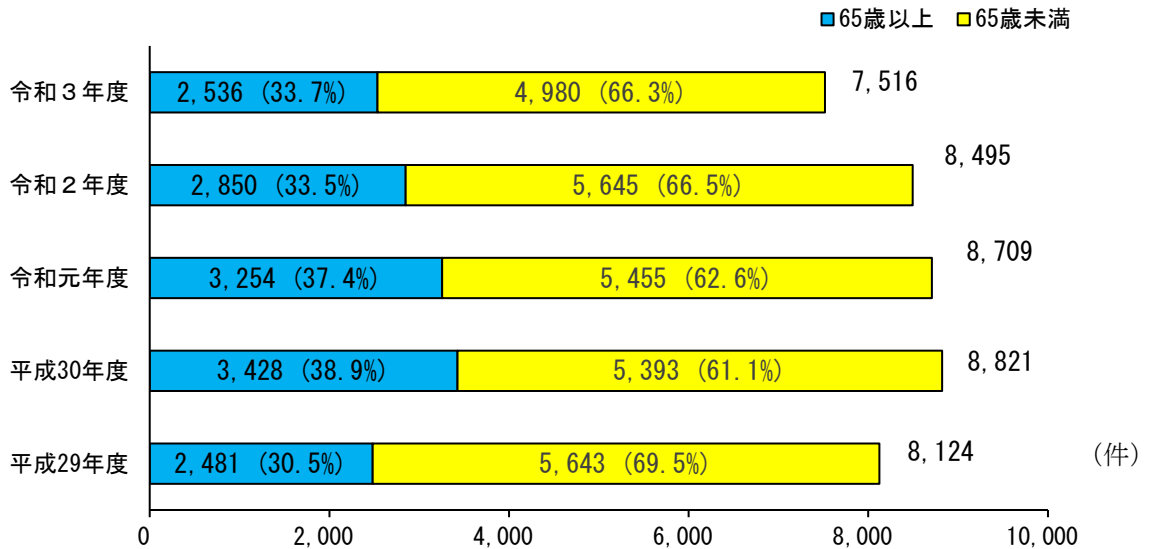
#### ① 高齢者の概況

高齢者の相談は2,536件で、前年度と比較して314件(11.0%)減少しています。相談全体に占める割合は33.7%と、前年度の33.5%とほぼ同水準で、依然として3割以上を占めています。

(単位：件)

項目	年度	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
苦情 問合せ		1,951	2,179	▲228	89.5%
		585	671	▲86	87.2%
計		2,536	2,850	▲314	89.0%

### 〔高齢者の占める割合と相談件数の推移〕



## ② 高齢者の主な商品・役務別の相談受付状況

高齢者の相談では、商品一般に関する相談が310件と最も多くなりましたが、前年度より116件(27.2%)減少しています。これは、架空請求に関する相談が減少したことが要因と考えられます。

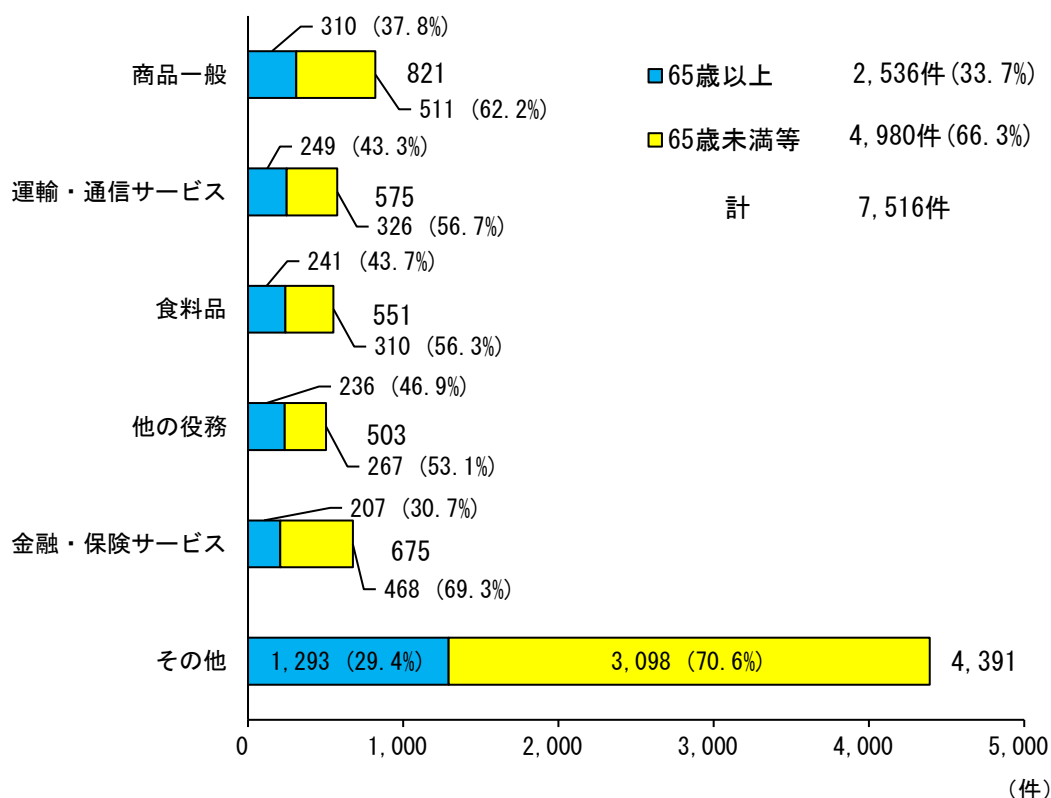
次いで多いのは、運輸・通信サービスの249件ですが、前年度より203件(44.9%)減少しています。これは、令和3年4月から相談内容の区分が変更され、アダルト情報サイトなどのデジタルコンテンツが「運輸・通信サービス」から「教養・娯楽サービス」に分類されるようになったことに加え、光回線の卸売りに関する相談が減少したことが、減少の要因になっています。

(単位：件)

	商品・役務名	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増 減 (a-b)	前年度比 (a/b)
1	商 品 一 般	310	426	▲116	72.8%
2	運 輸 ・ 通 信 サービス	249	452	▲203	55.1%
3	食 料 品	241	272	▲31	88.6%
4	他 の 役 務	236	144	92	163.9%
5	金 融 ・ 保 険 サービス	207	267	▲60	77.5%
	そ の 他	1,293	1,289	4	100.3%
	計	2,536	2,850	▲314	89.0%

主な商品・役務別に高齢者の割合の割合をみると、他の役務に関する相談が46.9%と最も高く、次いで、食料品に関する相談が、43.7%となっています。

〔主な商品・役務別の相談に占める高齢者とそれ以外の割合〕



③ 高齢者の相談に係る契約等の既払金額

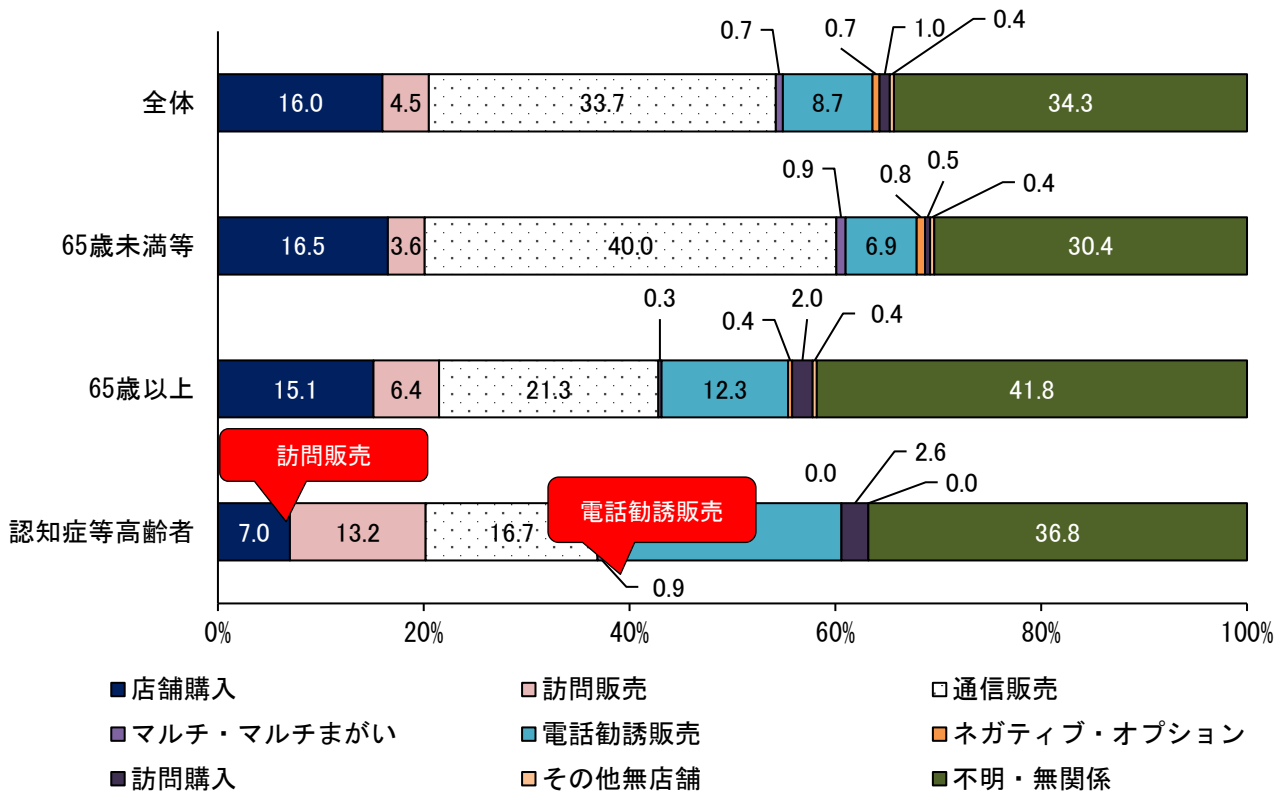
高齢者の相談に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数、既払金額合計、平均既払金額、最大既払金額ともすべて減少しています。

	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
お金を支払った人の数	430人	446人	▲16人	96.4%
既払金額合計	163,632千円	229,282千円	▲65,650千円	71.4%
平均既払金額（一人当たり）	381千円	514千円	▲133千円	74.1%
最大既払額	20,000千円	39,300千円	▲19,300千円	50.9%

④ 販売購入形態別相談割合

販売購入形態別で見ると、65歳以上では、65歳未満と比べて訪問販売や電話勧誘販売が多く、特に認知症等高齢者においてその傾向は顕著です。認知症等高齢者の判断力不足に乘じ、悪質な訪問販売や電話勧誘販売が行われていることがうかがえます。

〔販売購入形態別 相談割合（％）〕



## （２）高齢者の特殊詐欺の状況

### ① 概況

高齢者の特殊詐欺に関する相談件数は216件で、前年度より29件（15.5%）増加しています。類型別にみると、振り込め詐欺が174件（相談件数の80.6%）と最も多く、次いでワンクリック詐欺の25件（同11.6%）となっています。

振り込め詐欺のうち、還付金詐欺が111件で前年度より80件（258.1%）増加しており、特殊詐欺の相談が増加したことの主な要因となっています。

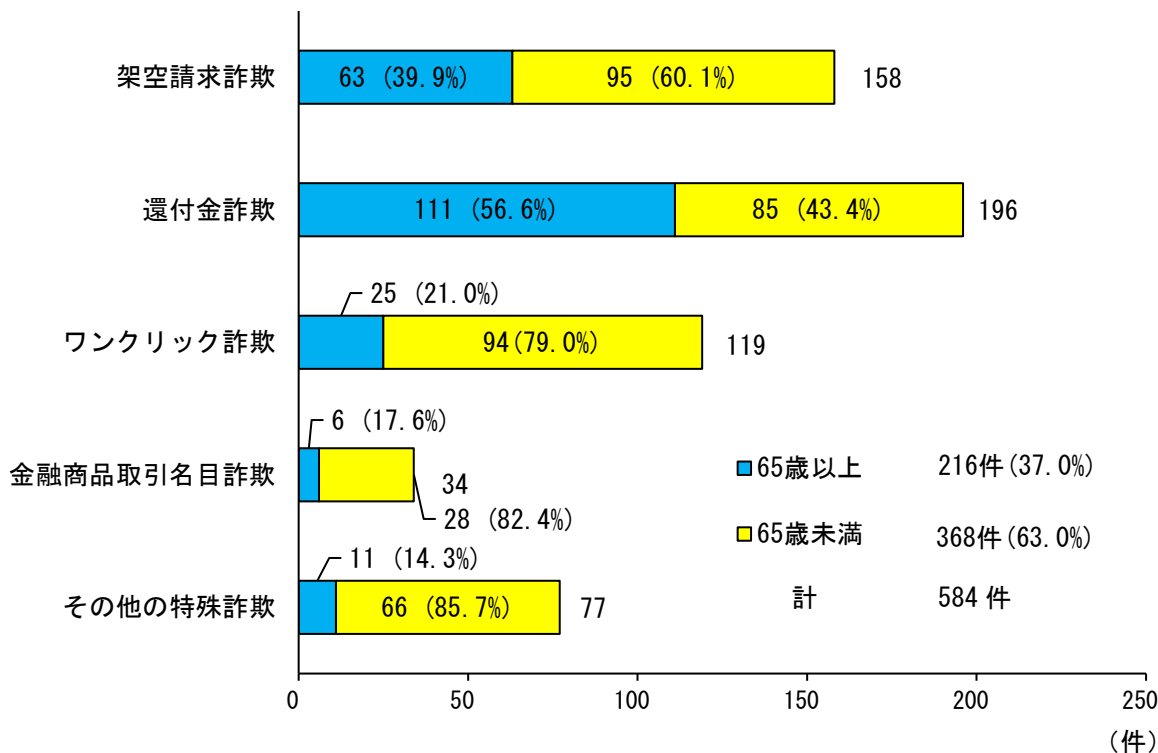
（単位：件）

年 度 類 型	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増 減 (a-b)	前年度比 (a/b)
振り込め詐欺	174	155	19	112.3%
架空請求詐欺	63	123	▲60	51.2%
還付金詐欺	111	31	80	358.1%
融資保証金詐欺	0	1	▲1	-
オレオレ詐欺	0	0	-	-
ワンクリック詐欺	25	20	5	125.0%
金融商品取引名目詐欺	6	7	▲1	85.7%
その他の名目詐欺（宝くじ等）	6	4	2	150.0%
異性との交際あっせん名目詐欺	5	1	4	500.0%
ギャンブル必勝法情報提供名目詐欺	0	0	-	-
合 計	216	187	29	115.5%

## ② 特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合

高齢者の特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合は、還付金詐欺が56.6%と最も多く、次いで、架空請求詐欺に関する相談の割合が39.9%となっています。

〔特殊詐欺類型に占める高齢者とそれ以外の割合〕



## ③ 高齢者の特殊詐欺に係る既払金額

高齢者の特殊詐欺の相談件数に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数は増加しましたが、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払額は減少しています。

	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
お金を支払った人の数	18人	4人	14	450.0%
既払金額合計	27,210千円	42,514千円	▲15,304千円	64.0%
平均既払金額 (一人当たり)	1,512千円	10,629千円	▲9,117千円	14.2%
最大既払額	12,000千円	39,300千円	▲27,300千円	30.5%

## 5 多重債務に関する相談の受付状況

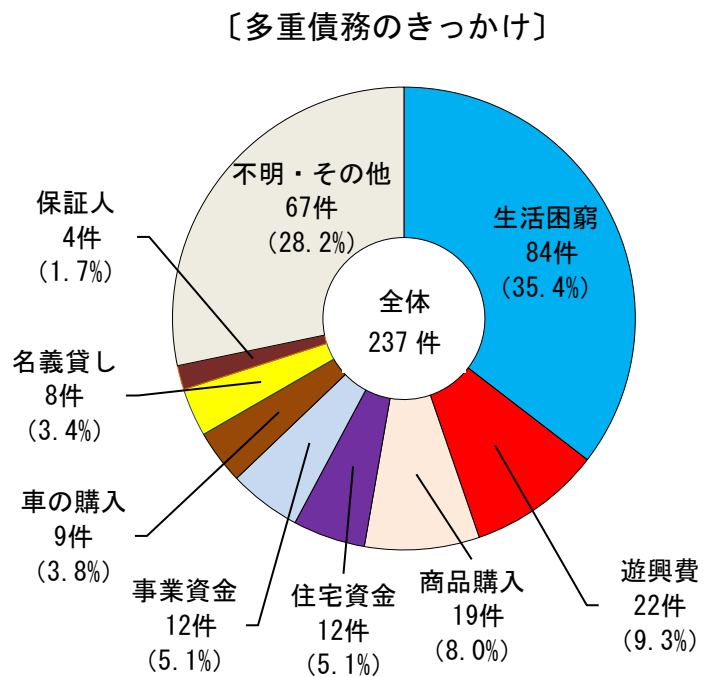
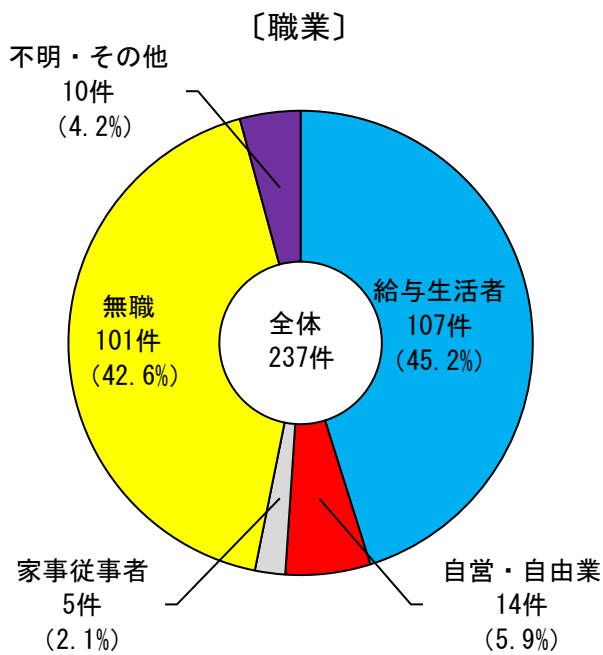
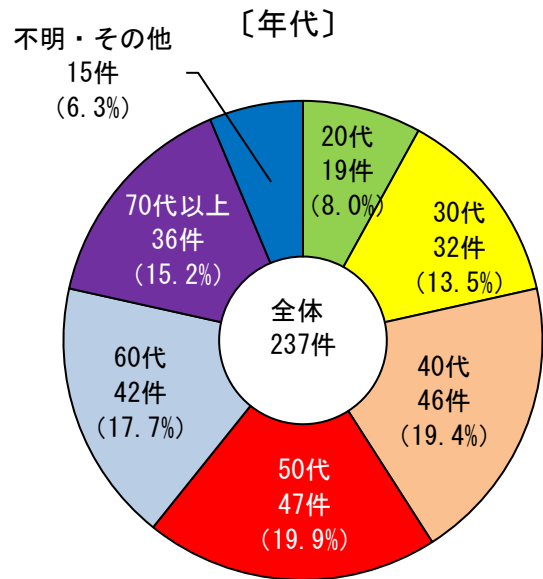
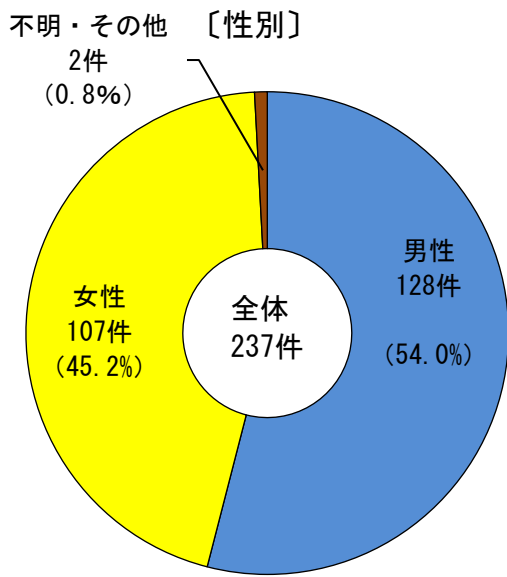
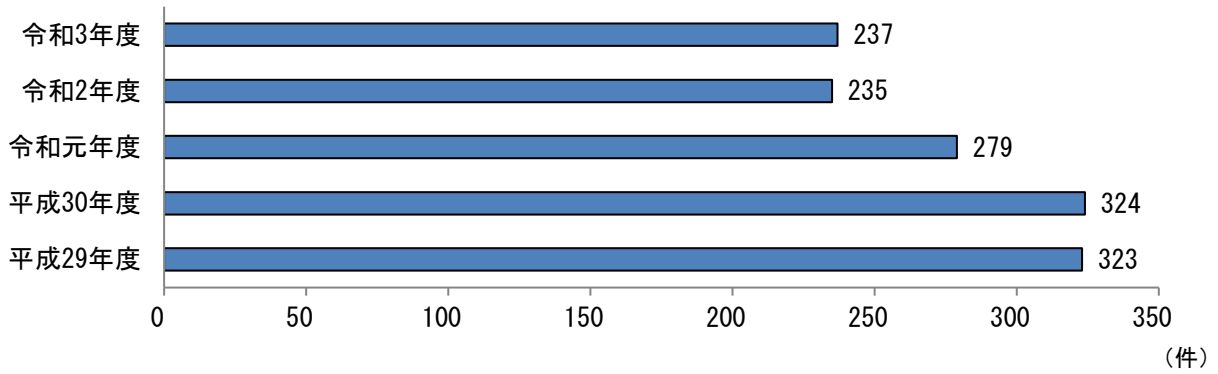
### (1) 消費生活相談窓口における受付状況

令和3年度における多重債務に関する相談件数は237件で前年度より2件(0.9%)増加しています。昨年度と比較してほぼ横ばいになっています。

(単位：件)

	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
相談受付件数	237	235	2	100.9%

〔多重債務相談件数の推移〕





## 6 ヤミ金などの相談の受付状況

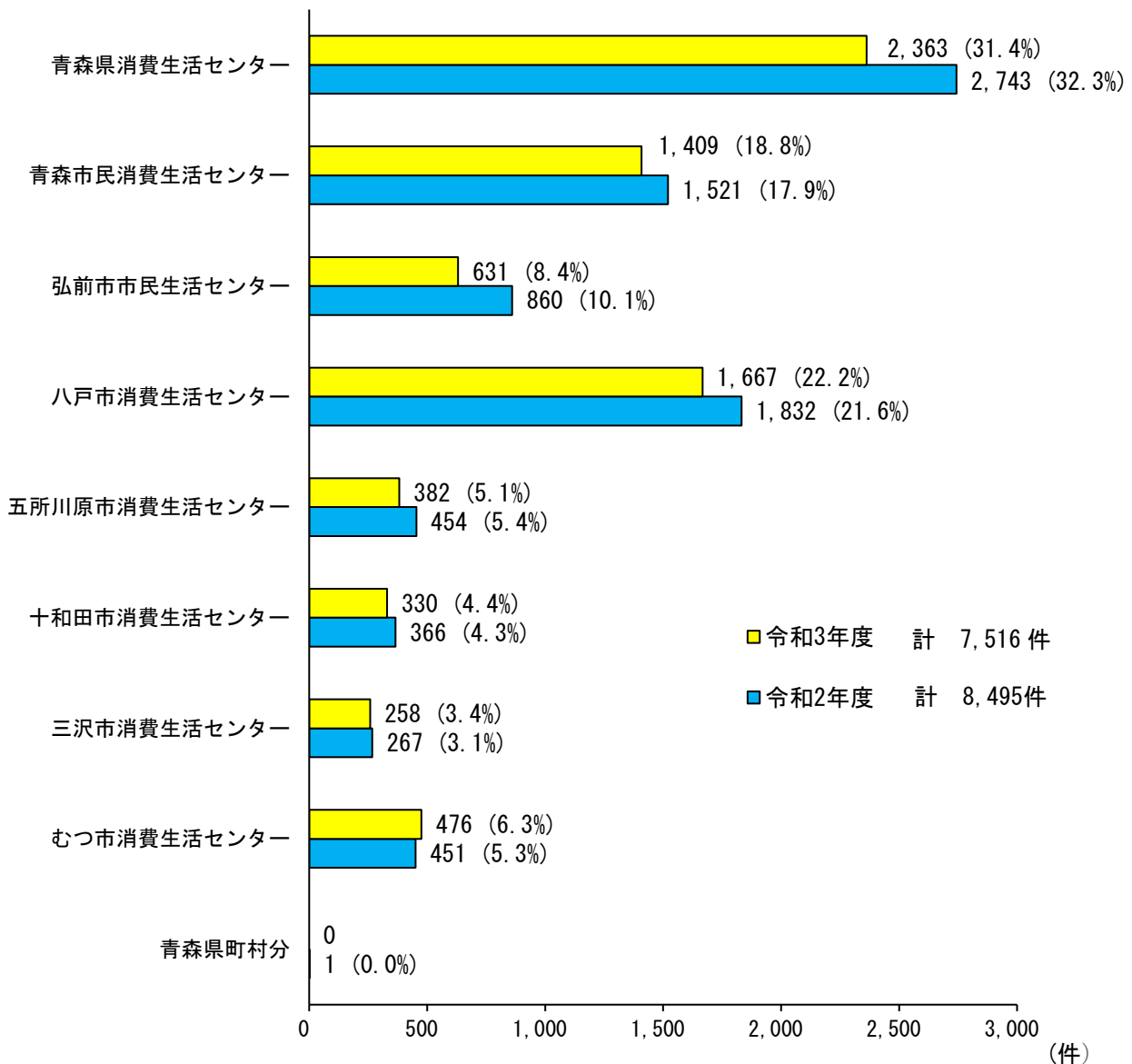
令和3年度におけるヤミ金などに関する相談件数は14件で、前年度より28件（66.7%）減少しています。

（単位：件）

	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
ヤミ金	12	36	▲24	33.3%
融資保証金詐欺	1	3	▲2	33.3%
借金整理屋	0	2	▲2	-
ショッピング枠現金化	1	1	0	100.0%
計	14	42	▲28	33.3%

## 7 相談関係資料

### (1) 機関別相談受付状況



## (2) 相談者居住市町村別相談受付状況

市町村別	件数				市町村別	件数			
	3年度	1,000人 当たり相談数	2年度	増減		3年度	1,000人 当たり相談数	2年度	増減
青森市	2,386	8.9	2,635	▲249	鶴田町	51	4.4	56	▲5
弘前市	756	4.6	987	▲231	中泊町	40	4.3	33	7
八戸市	1,566	7.1	1,721	▲155	野辺地町	44	3.7	64	▲20
黒石市	94	3.0	121	▲27	七戸町	61	4.3	68	▲7
五所川原市	298	6.0	323	▲25	六戸町	43	4.2	63	▲20
十和田市	342	5.8	382	▲40	横浜町	18	4.4	24	▲6
三沢市	239	6.3	236	3	東北町	56	3.5	57	▲1
むつ市	492	9.4	490	2	六ヶ所村	34	3.3	25	9
つがる市	122	4.1	142	▲20	おいらせ町	120	5.0	121	▲1
平川市	91	3.0	123	▲32	大間町	14	3.1	13	1
平内町	38	3.9	36	2	東通村	27	4.7	21	6
今別町	4	1.8	12	▲8	風間浦村	12	7.7	4	8
蓬田村	6	2.4	16	▲10	佐井村	5	3.1	2	3
外ヶ浜町	13	2.6	39	▲26	三戸町	39	4.5	46	▲7
鱒ヶ沢町	35	4.0	40	▲5	五戸町	69	4.4	62	7
深浦町	21	3.0	38	▲17	田子町	12	2.5	18	▲6
西目屋村	2	1.6	4	▲2	南部町	74	4.5	78	▲4
藤崎町	37	2.6	63	▲26	階上町	44	3.3	87	▲43
大鰐町	15	1.8	33	▲18	新郷村	5	2.4	2	3
田舎館村	20	2.8	29	▲9	県外・不明	137		137	0
板柳町	34	2.8	44	▲10	合計	7,516	—	8,495	▲979

\* 1,000人当たり相談数は令和4年4月1日現在の推計人口を基に算出